

II ボランティア活動報告

1. 松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト平成 25 年度活動報告

尻無浜博幸 古林康江 松田千壽子

松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトでは、2011.3.11 以来、被災地の支援活動を継続的に行ってきた。月日の経過と共に、あの大地震の出来事は私たちの生活の中で色あせつつあるが、一方で、大震災を受けた児童達の爪痕は、ここにきて様々な姿で表面化し、問題となりつつあるように感じる。小学校区という小地域に限定し、しかも定点で支援活動をして培った信頼関係を元に、難しい局面に達しつつある 3 年目も引き続き支援活動を行って来た。

(1) はじめに

25 年度の活動内容は、2 年目の 24 年度とほぼ同じ内容で実施することでスタートを切った。すなわち、スクールカウンセラーを中心に、学生も参加して行う「心のケア」、学生を中心に大街道小学校で実施する「学習支援」、松本市に児童や保護者、教職員を招待して実施するサマーキャンプである。

スクールカウンセラーは、大震災直後の 4 月以来、同じカウンセラーが相談を受け続けているために、大街道小学校の職員や保護者との信頼関係が深まり、現地では心待ちにしている方々が多数いるようである。概ね、1ヶ月に 1 回、2 日間の予定で現地に伺い、希望者（対象：児童、保護者、大街道小学校の職員）のカウンセリングを実施するとともに、児童達の授業状況の確認や、今までの経験を活かした啓蒙活動を実施している。また、大街道小学校へ伺っていない時は、電話やメールによる相談（対象：保護者や職員）などを受けている。

学習支援は、「心のケア」の一環として、放課後、宿題を中心に児童が学習ができるように見守るという形で進めている。月に 2 回、1 回 2 日間のペースで大街道小学校にて実施している。低学年クラス（1 年～3 年生）、高学年クラス（4 年生～6 年生）の 2 クラスに分けて見守りを続けている。低学年クラスは、宿題終了後、折り紙などの遊びの要素も入れて、児童との心の触れ合いに努めている。

一方、児童達が一番楽しみにしている活動が 8 月に 2 泊 3 日で松本にて実施される松本大学サマーキャンプである。大震災のあった年の夏、被災地でボランティア活動に参加していた学生たちの「被災地の子ども達に、信州の美味しい空気を吸わせてあげたい。緑の中で思いっきり遊ばせてあげたい。」という思いから実現した活動であった。最初の年は、保護者や職員の参加も多かったが、3 年目の今年、すべて学生達に任されて、大街道小学校の職員からの参加もなかった。保護者の信頼感も得、「お任せしても大丈夫」の声をもらっている。

新たな試みとしては、本プロジェクトのスクールカウンセラーによる現地での講演会の実施を上げることができる。難しい局面を迎えた現地への情報提供の一環であり、小中学校の先生方を中心に多数の皆さんに参加いただいた。

(2) 心のケア

本学の「心のケア」活動は、当初からカウンセラーが変更することなく、継続的に相談を受付続けているため、被災地の皆さんから厚い信頼を寄せられるようになっている。

今年度は年間で 10 回（20 日）訪問、電話・メールによる相談は 45 [昨年の実績 12] 件でした。年間通しての相談件数は、児童の相談が 46 [26] 件、教職員 79 [48] 件、保護者 46 [38] 件である。その他、コンサルテーション、授業参観、アンケートに関するアドバイス、資料提供などを実

施した。同行した学生達による心の支援活動も7回実施。

3年目に入り、相談件数が非常に増えている点が気がかりであった。特に、年が明けてからの相談件数の増加が目立つ。さらに不登校の児童も急増しており、阪神淡路大震災の経験から懸念していたことが現実化しているようである。

この対策としては、阪神淡路大震災の時のデータを資料として配付したり、不登校等に対する講演会を石巻にて開催する等実施した。(3年目の実情については、カウンセラーの古林の報告を、講演内容は第4部の講演録を参照のこと)

【2. 心のケア P190 を参照のこと。また、カウンセリングと次の学習支援活動は、文部科学省「平成25年度緊急スクールカウンセラー等派遣事業」として実施】

(3) 学習支援

学生による学習支援も継続して実施してきた。月に2回(1回2日)のペースで大街道小学校へ伺い、放課後児童達の宿題や自主学習の相手をする支援である。

25年度は、前期7回、後期10回の計17回(34日)実施した。昨年の訪問実績は22回(44日)であったため、当初の計画では25回実施する予定であった。結果的には、昨年実績の約77%の訪問回数に留まった。

今年度は、訪問日が小学校の行事と重なり学習支援活動が実施できなかつたり、逆に、本学の授業や行事等で学生がボランティア活動ができなかつたりと、中々思うに任せない状況であった。やはり、遠距離であることが大きな障害となり、何かあった場合の対応が瞬時にとれず、結局中止という選択になってしまうことが多かった。

学習支援に参加した本学の学生数は、延べ109名で、短大、大学、学年、学部、学科を越えて、大勢の学生が参加し、有意義な経験をさせていただいた。

また、参加児童は延べ数で、1年生108名[昨年236名]、2年生218名[325名]、3年生249名[415名]、4年生330名[420名]、5年生135名[259名]、6年生132名[379名]合計1172名[2034名]であった。昨年度に比べ、5回訪問できなかったことが影響して昨年度の延べ人数の57.6%であった。この結果から推測すると、訪問回数の減少を割引いても放課後の学習会への児童の参加が減少していると考えられる。今後の動向を見守りたいと思う。

学習支援の内容は、月2回、1回2日間で放課後児童の学習を見守り、質問等に応える形で実施された。児童達は、1年から3年生までの低学年クラス、4年生以上の高学年クラスに別れて、主に宿題を中心に行った。

この学習支援は、仮設住宅や生活環境の変化で学習が自宅でできない児童が増加し、学力低下が進んでいる現状を打破するために、大街道小学校からの依頼を受けて再開した活動である。

学力の低下は、児童の気持ちの上でも大きな影を落とすことから、少しでも勉強をしたくなる環境を用意するために、放課後の学習会が開かれることになった。本学の学生だけで児童を見守ることで、放課後の学習会は「居残り」というマイナスのイメージが払拭され、児童が参加しやすい会となっている。

また、学生が出向けなかった木曜日と金曜日の放課後、児童が自主的に宿題をしている姿が見受けられたと聞いた。子ども達の真意は確認していないが、習慣化の表れではないかと理解したい。

3年目の新たな傾向としては、単に放課後の学習支援に留まらず、児童の休み時間に一緒に遊んだり、プール等の清掃を児童と共に実施したり、持久走大会と一緒に走ったりと、児童と共に過



す時間を増やしたことが上げられる。これらは、学習会にも良い影響があったようである。

被災による心の傷が表面化するといわれている3年目を迎え、児童の心の癒しにつながる支援ができていのか考査することも必要な時期になったようである。

一方、支援活動に参加している本学の学生には、大きな教育効果があらわれている。児童に「またいつ来るの?と聞かれると、つい「またくるね!」とってしまう気持ちになるという。ボランティア活動を続ける意義の大きな一つである。



(4) 松本大学サマーキャンプ

サマーキャンプは、松本大学の学生が全て企画、運営する大街道小学校の児童達が楽しみにしている行事である。大震災のあった年に災害支援活動に石巻の大街道小学校へ通っていた学生達から自然発生的に生まれた「被災した児童に、美味しい空気を吸わせてあげたい。信州の自然の中で、思いっきり遊ばせてあげたい」という思いが形になり実現したサマーキャンプも今年で3年目を迎えた。今年も地域の方々の協力を得て、3コースのメニューを準備、児童達を迎えることができた。もちろん、宿泊も3年間変わりになく浅間温泉で湯に浸り、ゆっくりリフレッシュできるようにと考えられていた。期間は、大街道小学校の都合を優先して、8月7日~9日2泊3日で実施した。

今までサマーキャンプは、プロジェクトチームが補助金を確保したり、一般の皆様からの寄付を募ったりと運営資金を確保してきたが、今年度はずいに十分な資金額保ができず、松本大学が主な支援元となり、地域の皆さんの協力を得て、何とか実施する運びとなった。被災から3年目を迎えた世の中では災害支援の補助金も打ち切れ、企業や一般の方々からの寄付もままならない状況になっている。文部科学省の委託事業は、受益者負担の条件が付いているため、サマーキャンプのためには利用が難しく、「心のケア」のみを対象とするに止めた。

一方、学生はギリギリまで前期試験に対処し、試験が終わるのを待って、サマーキャンプにシフトする流れであった。大街道小学校の児童の予定を優先させると、どうしても仕方のないスケジュールである。

サマーキャンプの内容は学生が企画・運営する体験学習とレクリエーションを取り入れた3コースである。美しい自然の中での体験学習やレクリエーション、今回はプールでの一時も取り入れて盛りだくさんの内容であった。そして、温泉旅館での宿泊等々、短い時間であったが十分楽しめたようである。

【前日 松本→石巻市】

8/6 迎えに行く学生達は、JR東北新幹線の中でも翌日のバス内で実施するプログラム確認に余念がない。

【1日目(小学校→松本)】

8/7 6時30分石巻大街道小学校集合。児童達は、健康チェックを済ませてから決められたバスに乗り込む。バスの中では、児童達が退屈しないように、バス担当の学生達が色々なクイズやDVDなどを用意。そして、松本市や安曇野市の紹介や明日のA~Cコースの各々の説明など、楽しい雰囲気を演出。

今年は順調に進み、昨年のような時間の遅れもなく16時頃に



浅間温泉到着。2時間程休んで、18時に皆そろって夕食をいただき、いよいよサマーキャンプのスタート。お世話係の学生とともに、温泉に入ってゆっくり休み、明日に備える。学生達は、興奮してなかなか寝ようとしないうちを寝かせるために四苦八苦。

児童達が寝静まった22時から、学生スタッフミーティング開始、明日に備えた。

【8/8 サマーキャンプ 2日目】

7:30 朝食。水筒にお茶を入れて頂き、各々コース別に準備。

9時、バスに乗ってA~Cコースの会場へ移動、体験学習の開始。

今年は、ホテルでのお世話役の生活版の学生が、3日間通して児童の面倒をみることになっていたので、児童達がどこに行くにも学生リーダーの後を付いて歩いているのが印象的であった。

Aコース バーベキュー&川遊び

活動場所：梓水苑・ラーラ松本

Bコース おもいきりサッカー

活動場所：松本大学・ラーラ松本

Cコース ジャがいも堀りとそば打ちを体験！

活動場所：安曇野・ラーラ松本

松本大学で人間健康学部の学生達が準備したブッシュスタイルの食事で昼食

午後は松本市営プール「ラーラ松本」でプール遊び

プールに参加しない児童と保護者は松本市内散策

16時には全員浅間温泉へ戻り、温泉三昧。最後の夜を楽しんだ。

【8/9 サマーキャンプ 最終日】

7:30 朝食。帰りの仕度を調べ

8:40 浅間温泉の皆さんとお別れ会

9:30 松本大学にてお別れの会、集合写真撮影

10:00 松本大学出発 帰りのバスも送り担当の学生が児童の面倒をみる。

19:00 全員無事に大街道小学校へ到着。迎いの保護者と共に帰宅。送り担当学生及び教員は石巻にて泊。

【8/10 石巻→松本】 送り担当者も全員元気に新幹線を乗り継いで松本着。

平成25年度も無事にサマーキャンプを実施することができた。

大街道小学校の教職員や参加者からの感想は良好で来年も実施して欲しいとの希望がすでに上がっている。受け入れた本学の学生達にも良い経験となった。子供達と接する学生の姿は、学内で見かける姿からは想像できない対応であり、教職員顔負けの細かい所までいきとどいた心のこもった指導であった。

【協力・援助者】

今回のサマーキャンプは、松本大学、一般市民の皆様や松本大学関係者、フラダンス愛好家の皆様の寄付金、松本大学山根ゼミ「チャリティー・アロハ・コンサート」からの寄付金等を充当することで実施することができた。

また、安曇野市商工会、浅間温泉にそばの花を咲かせる会、竹淵農場、浅間温泉観光協会、浅間温泉町会連絡協議会、浅間温泉まちづくり協議会、浅間温泉ゆめ市、浅間温泉旅館協同組合、浅間温泉旅館協同組合婦人部、アトリエMOO、かまくら屋、山賊焼を考える会、松本ハイランド協定



施設連絡協議会、JA 松本ハイランド、中小企業家同友会浅間部会、(有) 本郷鶏肉、ホットプラザ浅間、浅間温泉梅の湯、浅間温泉栄の湯、浅間温泉玉ノ湯、巾上町会、齊藤農園、双葉、一休庵、コネコネハウス、阿留雅、(有) 有明、信州安曇野勸農、ツーリストツアー（敬称略・順不同）他、松本市・安曇野市の地域の大勢の皆様のお力添えにより、より良いサマーキャンプにすることができた。ここに記してお礼申し上げます。

(5) おわりに

学習支援活動が終わる金曜日は、いつも 15:55 まで活動をし、すぐタクシーにのり石巻駅まで行っている。石巻駅発仙台駅方面行きの電車は 16:21 発である。要するにいつもギリギリである。まず 15:55 になっても子ども達が帰らないのだ。事前に「15:55 には絶対終わるからね！」と段取りよくやっているつもりでもダメなのだ。いつも後ろ髪を引かれながら帰路につく有り様だ。タクシーに乗り込めば、運転手さんから「石巻の子どものためにありがとうございます」とお礼をいわれる。時には、駅に着く前に早めにメーターを下ろし料金をまけていただくこともある。そんなことに出くわしたことが学生はないので大いに驚く。被災地ならではのことである。

ここまで3年間、様々な方々のご理解のもと、大街道小学校での災害支援活動が展開できてきたことは感謝である。この活動が終わるのは、大学側の都合で終わるのではなく、現地の都合で終わるまで続けたいと願った活動を開始した経緯がある。2011年3月に1年生だった児童は今年度4年生であった。彼らとの付き合いも3年間になったというわけだ。2014年度には堂々の5年生になる。せめて被災当時1年生だった児童が大街道小学校を卒業するまでは何らかの活動を継続できればと小学校側とも話し合い、目処を立てている最中である。小学校ではやっと今年度、避難訓練ができるようになったと教頭先生から聞いた。これまで2年間は避難訓練ができなかったそうだ。サイレンをきいて落ち着かなくなったり、また吐き気を催す児童がいたからだそうだ。継続してそこに関わっていれば、子ども達の様子を伺うことができる。だからこそ、そこに関わる意義もまた再認識できることになる。被災を引き吊りながらの生活はまだまだ続いている。

資料1 松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト活動一覧(平成25年度)

前期

| No. | 日程 | | ボランティア参加人数 | | | | | 活動内容 | 参加児童数(学年別2日間延べ数) | | | | | | | 責任者 | |
|---------|------|----------|------------|-----|----|----|---|------|---|----|----|-----|-----|----|----|-----|--|
| | 出発日 | ～ 帰省日 | 教員 | 専門員 | 職員 | 学生 | 他 | | 計 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | 計 |
| 1 | 4/18 | 木 4/20 土 | | 1 | | | | 1 | 心のケア 1日目 14:00～17:30 共闘・養護教諭打合せ クラス参観(児童観察) 保護者&児童面接 担任とのカンファレンス他 2日目 8:30～16:00 校長・養護教諭打合せ 担当への報告及び連絡等 保護者及び児童面接 授業参観(児童観察) クラス担任・教頭・養護教諭報告及び連絡他 | | | | | | | 0 | 古林康江 |
| 2 | 5/23 | 木 5/24 金 | 1 | 1 | | | 5 | 7 | 心のケア、学習支援、朝・授業の間・昼休みの遊び相手 | 10 | 14 | 16 | 15 | 16 | 13 | 84 | 尻無浜博幸 古林康江 |
| 3 | 5/30 | 木 5/31 金 | 1 | | | | 6 | 7 | 学習支援、プール清掃、朝・授業の間・昼休みの遊び相手 | 8 | 14 | 17 | 15 | 17 | 14 | 85 | 尻無浜博幸 |
| 4 | 6/7 | 木 6/8 金 | | | | 1 | 5 | 6 | 学習支援、プール清掃、引き継ぎ訓練手伝い、朝・授業の間・昼休みの遊び相手 | 5 | 8 | 17 | 15 | 7 | 1 | 53 | 小穴悦子 |
| 5 | 6/13 | 木 6/14 金 | | 1 | | | | 1 | 心のケア 1日目 ・1-2組、2-2組、4-1組参観、視察 ・母親面接1名 ・児童面接1名 ・1-2組の児童について校長、教頭とミーティング ・担任と事例研究 2日目 ・1-2組児童観察、ケース会議 ・母親面接1名 ・5-2組児童観察 ・校長、教頭とミーティング ・1、5年担任と話合 | | | | | | | 0 | 古林康江 |
| 6 | 6/20 | 木 6/21 金 | 1 | | | | 5 | 6 | 学習支援、防災品リストアップ作業、屋上踊り場清掃 | 9 | 19 | 14 | 30 | 16 | 5 | 93 | 尻無浜博幸 |
| 7 | 6/27 | 木 6/28 金 | 1 | | | | | 1 | 学習支援、防災品リストアップ作業 | 5 | 10 | 19 | 17 | 13 | 3 | 67 | 佐藤哲郎 |
| 8 | 7/4 | 木 7/5 金 | | | | 1 | | 1 | 学習支援、朝・授業の間・昼休みの遊び相手 | 8 | 16 | 12 | 20 | 0 | 5 | 61 | 田中雅俊 |
| 9 | 7/11 | 木 7/12 金 | | 1 | | | | 1 | 心のケア 1日目 ・母親面談1名 ・児童面接1名 ・養護教員、担任とミーティング ・教頭と話合 ・授業参観 2日目 ・打合せ ・母親面接3名 ・児童面接1名 ・児童参観 ・養護教員、担任とミーティング 学習支援、朝・業間・昼休みの遊び相手 | 10 | 15 | 14 | 26 | 6 | 2 | 73 | 古林康江 |
| 10 | 8/7 | 水 8/9 金 | 5 | 1 | 4 | 36 | 0 | 46 | サマーキャンプ(松本市及び安曇野市における体験学習会) 2泊3日 ・学生が企画して、学生が中心となり実施 ・心のリフレッシュと体験学習会(キッズサッカー、城下町の散策、農産物収穫体験と信州郷土料理挑戦、大学生と川やプールでの交流他) ・児童をグループに分けて、夜中も含めた3日間の生活指導や補助を実施、体験学習の指導やサポートをおこなった。 ・児童と学生との信頼関係が深まり、その後のカウンセリングや学生指導に効果があった。 | 0 | 0 | 15 | 29 | 23 | 23 | 90 | 住吉廣行、尻無浜博幸、白戸洋、矢内和博、木村晴希、古林康江、松田千壽子、小穴悦子、宮坂佳典、田嶋哲也 |
| 参加者延べ人数 | | | 9 | 5 | 6 | 57 | 0 | 77 | | 55 | 96 | 124 | 167 | 98 | 66 | 606 | |

後期

| No. | 日程 | | 参加人数 | | | | | 活動内容 | 2 | | | | | | | 責任者 | |
|-----|-------|-----------|------|-----|----|----|---|------|--|---|----|----|----|---|---|-----|-------|
| | 出発日 | ～ 帰省日 | 教員 | 専門員 | 職員 | 学生 | 他 | | 計 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | 計 |
| 11 | 10/3 | 木 10/4 金 | 1 | | | | 5 | 6 | 学習支援、朝・授業の間・昼休みの遊び相手 | 9 | 18 | 24 | 20 | 8 | 8 | 87 | 尻無浜博幸 |
| 12 | 10/10 | 木 10/11 金 | | 1 | | | | 1 | 心のケア 1日目 ・保護者及び児童相談 ・担任と話合 2日目 ・授業参観への参加 ・校長と話合 ・保護者面接 ・児童面接 ・養護教員コンサルテーション(アンケート及び面接について) | | | | | | | 0 | 古林康江 |
| 13 | 10/31 | 木 11/1 金 | 1 | | | | 6 | 7 | 学習支援、朝・授業の間・昼休みの遊び相手 | 5 | 17 | 19 | 29 | 3 | 3 | 76 | 矢崎久 |
| 14 | 11/7 | 木 11/8 金 | 1 | | | | 5 | 6 | 学習支援、競歩大会手伝い、朝・業間・昼休みの遊び相手 | 6 | 12 | 20 | 21 | 6 | 6 | 71 | 尻無浜博幸 |
| 15 | 11/14 | 木 11/15 金 | | 1 | | | | 1 | 心のケア 1日目 ・コーディネーターとの打ち合わせ ・母親力カウンセリング1名 ・母親面談1名 ・児童心のケア(保健室登校児童等)2名 ・担任とミーティング 2日目 ・コーディネーターとの打ち合わせ ・校長話合 ・かいどうっ子フェスタ参加 ・各クラス参観 ・母親面談4名 ・担任ミーティング ・保健室登校児童心のケア1名 ・資料提供 ・コンサルテーション | | | | | | | 0 | 古林康江 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|-------|---|-------|---|----|----|----|-----|--|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|------|
| 16 | 12/5 | 木 | 12/6 | 金 | 1 | | 6 | 7 | 学習支援、朝・授業の間・昼休みの遊び相手 | 5 | 14 | 2 | 18 | 4 | 7 | 50 | 尻無浜博幸 | |
| 17 | 12/12 | 木 | 12/13 | 金 | 1 | | | 1 | 心のケア 1日目・母親面接・児童面接・授業参観・担任等とミーティング・資料提供 2日目・授業参観・児童面接・母親面接 | | | | | | | 0 | 古林康江 | |
| 18 | 1/16 | 木 | 1/17 | 金 | 1 | | | 1 | 心のケア・母親カウンセリング1名・児童カウンセリング1名・児童SST・担当教員とカンファレンス・養護教員と報告、連絡会・資料提供 2日目・授業参観及び観察・児童SST・母親カウンセリング・担当教員とカンファレンス・養護教員と報告、連絡会・不登校、発達支援について資料提供 | | | | | | | 0 | 古林康江 | |
| 19 | 2/6 | 木 | 2/7 | 金 | 1 | | 5 | 6 | 心のケア 1日目・児童カウンセリング1名・保護者カウンセリング1名・教員カウンセリング3名・教育講演会講師 2日目・児童カウンセリング3名・保護者カウンセリング1名・教員カウンセリング5名・授業参観・コーディネータ打合せ3名 学習支援、朝・業間・昼休みの遊び相手 | 6 | 14 | 16 | 24 | 2 | 10 | 72 | 古林康江 | |
| 20 | 2/20 | 木 | 2/21 | 金 | | | | 4 | 学習支援 | 9 | 16 | 17 | 15 | 0 | 11 | 68 | | |
| 21 | 2/27 | 木 | 2/28 | 金 | | | 1 | 9 | 10 | 学習支援、朝・授業の間・昼休みの遊び相手、大学祭寄付金を渡す | 3 | 15 | 10 | 16 | 11 | 10 | 65 | 関翔太郎 |
| 22 | 3/6 | 木 | 3/7 | 金 | 1 | | 12 | 1 | 14 | 心のケア 1日目・母親相談3名・児童相談2名・教員カウンセリング5名・今後の方針打合せ 来年度のカウンセリング打合せ 2日目・母親カウンセリング2名・児童カウンセリング3名・カンファレンス5名・来年度予定打合せ 学習支援 | 10 | 16 | 17 | 20 | 3 | 11 | 77 | 古林康江 |
| 23 | 3/14 | 金 | 3/16 | 日 | 1 | | | | 1 | 大街道小学校校長・石巻市教育委員長との会議 平成25年度の活動内容の検証と今後の支援活動についての話し合い | | | | | | | | 木村晴壽 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | |
| 参加者延べ人数 | | | | | 5 | 6 | 1 | 52 | 0 | 65 | 53 | 122 | 125 | 163 | 37 | 66 | 566 | |
| 参加者延べ人数 | | | | | 14 | 11 | 7 | 109 | 0 | 142 | 108 | 218 | 249 | 330 | 135 | 132 | 1172 | |

資料2 平成25年度 松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト 会計報告

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|---------------------------|-----------|--------------------------|-----------|
| 前年度より繰越 | 302,890 | * 学習支援 (文科省委託事業対象外支出分) | |
| 1. 外部からの援助 | | 旅費・交通費 駐車料金、高速代他 | 30,230 |
| ものづくりフェア | 4,830 | 食糧費 石巻における食事代 | 15,250 |
| 2. その他 | | 賃借料 レンタカー代 | 35,612 |
| 個人 | 50,000 | 消耗品 ガソリン代他 | 8,532 |
| 活動資金として(募金) | 241,505 | | 89,624 |
| | 291,505 | | |
| * サマーキャンプ | | * サマーキャンプ | |
| 1. 松本大学及び松本大学関係団体寄付・関係者募金 | | 旅費・交通費 交通費 送迎 バス3台分 2泊3日 | 1,081,550 |
| 教職員・学生 | 11,549 | その他 タクシー代、駐車料金代 | 14,130 |
| 松本大学 | 2,461,920 | 宿泊費 (122名) | 1,215,000 |
| ラブ イズ アロハ チャリティ | 244,365 | | 2,310,680 |
| | 2,717,834 | | |
| 2. 外部からの援助 | | 食糧費 昼食代 3回分 | 86,100 |
| 団体・企業 | 20,000 | 飲料水 3日分 | 25,575 |
| 個人 | 137,507 | 送迎担当者食事代 | 52,205 |
| | 157,507 | | 163,880 |
| | | 通信費 案内、しおり等送付他 | 16,440 |
| 4. その他 | | 消耗品 ネームプレート、文房具、救急セット他 | 30,744 |
| 大街道小学校昼食代 | 92,000 | バス内のクイズ等の景品 | 10,602 |
| | 92,000 | A・B・Cコース 消耗品 | 11,940 |
| | | ミニ緑日用 かき氷、射的、花火等 | 3,120 |
| | | | 56,406 |
| | | 賃借料 会場使用料他 | 6,000 |
| | | 専門職謝礼 2名分 2泊3日 税込み | 111,370 |
| | | 保険料 参加者旅行保険 (102名) | 58,200 |
| | | | 58,200 |
| | | 来年度繰越 | 753,966 |
| 平成25年度収入合計 | 3,566,566 | 平成25年度支出合計 | 3,566,566 |

*今年度の「心のケア」及びそれに伴う学習支援活動は文部科学省緊急スクールカウンセラー派遣委託事業として実施。